

中国における退職年齢延長と家計消費

—マイクロデータによる理論・実証分析

鄒 蓉

同志社大学経済学研究科*

報告要旨

本報告では、世代重複モデルを構築し、退職年齢の延長が家庭消費に与える影響を明らかにする。さらに、中国における健康および定年退職の縦断的研究 (CHARLS)のマイクロ調査データを用いて、定年退職後働かない人を含む家庭を対照組、定年後働き続ける人を含む家庭を実験組として、退職年齢の延長と家庭消費の関係について、最小二乗法と Tobit モデルを用いた実証分析を提示する。

理論分析の結果、老年世代の労働比率の上昇は、家計総貯蓄率を低下させることが明らかとなっている。また、OLS による実証分析の結果、定年後働き続ける行動が家庭消費に有意にプラスの影響を与えること示す。さらに、Tobit モデルを用いた分析により、OLS 回帰結果が頑健であることを明らかにする。

* 〒 602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入ル
E-mail: yoyogwgm@gmail.com